

Prologue

01

北欧の国 ストックホルムより(6)

News

02

スウェーデン・フィンランド同窓会セミナーの開催 スウェーデン同窓会ボードミーティングの開催 ストックホルムセンター主催セミナーの開催 来会訪問記録

Reports

06

同窓会セミナーレポート JSPS Sweden-Japan Collaboration Symposium スウェーデン Royal Wedding

Academic Information

10

ノーベル財団・ノーベル賞関連ニュースフィンランド教育省新大臣の就任2機関の英語版HPの開設/ゴットランド大学の合併統合数学分野の新たなプログラムの発足カロリンスカ医科大学ニュース

Notice

13

セミナー・シンポジウムの開催、イベント情報 外国人特別研究員事業(欧米短期&一般) カロリンスカ医科大学同窓会 会員募集 JSPS Stockholm News Letter 定期購読について 職員紹介

## 北欧の国 ストックホルムより(6) 少子化と女性研究者問題について

長く厳しい冬の間は、ストックホルムの人達は、黒っぽいコートを着て、街を歩いている人が圧倒的に多い。しかし、春になると、カラーフルなコートを着る人が、増えてきます。植物は一斉に芽吹き、花が咲きます。4月の中頃かららは、台樺や樫の木が多いせいか、これらの花粉で花粉症になる人が、かなり多くいるようです。ストックホルムに来て、色々な種類の桜があるのに気がつきました。ウワミズザクラは多くの公園で、桜の花と思えないような、長い花穂の白い花を咲かせます。山桜、大島桜に似た桜、木の肌や花の形から、桜の仲間と考えられるけれども、名前がわからないものもあります。王立公園には、八重桜が60本位あって、4月下旬から5月の始めにかけて見事な花を咲かせて、桜祭りが開かれ、日本人を含めて大勢の人が集まって賑わいます。

5月1日のメイデーの頃は、日本では初夏の季節ですが、ス トックホルムは、まだ薄ら寒く、 春の感覚です。天気の良 い日曜日などに公園に行くと、子供づれが多く、こんなに 人がいたのかと思うほど、周りのアパートから人が出て、 日光浴を楽しんでいる姿をよく見かけます。芝生の上に シートを敷いて、肌もあらわな水着姿の人が多く、皮膚が んは大丈夫なのかなと思ってしまうほどです。しかし、北欧 の人にとって、日光はビタミンDを体内で作るのに、必要な のだと地元の人に教えられて、昔、習ったことを思い出し ました。北欧の人にとって、日光不足は深刻で、子供の発 達障害の原因となる程なのです。水着姿の日光浴は、北欧 の人には、ファッションではなくて、生理現象なのです。 ストックホルムの街や公園を歩いていると、乳母車を引い た人や子供連れが、多いのが目を引きます。スウェーデン は、世界で初めて少子高齢化が、問題になった国ですが、 昨今の街の様子から判断すると、少子化問題などは、関係 ないような気さえします。2005年に発行された、日本の総 務省統計局発行の人口ピラミッドを眺めてみますと、ス ウェーデンと日本の人口ピラミッドは、よく似ているのに 気がつきます。団塊の世代と団塊ジュニア世代の人口が多 く、膨らんでいるのは、日本によく似ています。日本の場 合は、団塊ジュニア世代以後の若年層が、減少の傾向に なっていて、尻窄まりの形がはっきりしていますが、ス ウェーデンの場合は、団塊ジュニアの世代の次に、1990年 前後に、一時的に出生率が回復して、2を超えます。しか し、その後、財政の引き締めで、再び減少に転じて2000年 には、出生率は1.5にまで急落します。しかし、景気の回復 によって、2005年には1.77に、2010年には1.95に増加して いますので、最近では、出生率がさらに増加していること が予想されます。少子化問題から未だに抜けきれないで、 出生率1.4 付近を低迷している日本と比較すると、大きな 違いです。この違いは、スウェーデンにおける女性の社会 進出に対する取り組みと、子育て支援の政策を見てみると、 よく分かります。女性が社会進出をするようになると出生 率は下がりますが、スウェーデンでは、これが1965年頃か ら始まりました。1960年頃になると、第二次世界大戦後の 復興期になり、大戦中に、中立を守っていたスウェーデン は、直接、戦争による設備の被害を受けなかったために、

#### JSPSストックホルム研究連絡センター長 藤井 義明

戦火に曝されたヨーロッパの復興による大きな需要を、引き 受けるようになり、経済成長の機会が訪れるのです。

このときに、産業界はどこも深刻な労働力不足に陥り、女性の社会進出が促進されます。1965年頃に2人を超えて、回復傾向にあった出生率が、女性の社会進出に伴い減少が始まり、1980年には1.6人にまで低下して、少子化が再び社会問題として、浮かび上がって来ます。

しかし、スウェーデンでは、女性の社会進出の初期から、男女平等の視点で、家庭と仕事の両立を可能にする社会を、作ることを目指して、男女機会均等や同一労働同一賃金などの女性の独立を、促進する政策を推し進めると同時に、 国の将来を担う子供を安心して生み、両親で協力して育む社会作りの政策が始められます。子供の成長に必要な費用は、社会全体で支えて、親の負担を出来るだけ無くするように、児童福祉法が制定されて、仕事を持ちながら安心して子供を産み、育てたい女性にとって暮らし安い社会を作る政策を、超党派で推進してきました。このことが、最近の出生率の回復に結びついていると考えられます。

政権の交代があっても、子供のいる家庭への支援の重要性は、 右派、左派の政権にかかわらず基本理念として、共通してい たので、その政策は着実に深化して、手厚い社会保障制度を 作り上げて来ました。また、この制度は、子供の権利の視点 から、婚外子に対しても、婚内子と法的差別なく同様に、適 用される事から、例えば、スウェーデンで2005年に生まれた 子供の過半数は、同棲(サンボ)のカップルから生まれてき たと言われています。

また、男女機会均等の政策も、超党派の基本理念として維持強化されて、スウェーデン社会の特徴になっています。大学などの人事でも、全ての職種で何れの性も、40%以上を占めることを、機会均等の目標としています。ちなみに、国会議員の数や閣僚の数では、女性の数はすでに40%を超えています。しかし、2007年の調べでは、スウェーデンの大学、高等教育機関における研究教育職にいる28000人のうち、42%が女性ですが、ポスト別に見ると、ポストドクが42%、講師が57%、上級講師が39%を女性が占めていますが、教授ポストには、女性が18%しか就いていないことがわかりました。これに対して、カロリンスカ研究所やヨーテボリ大学など多くの大学で、女性教授を増やす取り組みが、進められていますが、これは、なかなか一筋縄では進まないようです。昨年12月に、スウェーデンの大学で2番目に多くの女性教授

(28%) のいるストックホルム大学で、さらに、研究者の男女平等を推し進める目的で、26人の女性准教授に、研究成果をあげるための特別の研究助成をすること、外部から優れた女性研究者を客員教授として、招聘することのプログラムを発表しました。結果がどうなるか楽しみですが、大学によると2006年にも同じような努力をして、2年後に15人の女性が教授にプロモートされたと言っています。

改革を粘り強く着実に進めてゆく実行力と、堅実さは、スウェーデン流の現実主義の素晴らしさだと思います。

#### 2012年度 スウェーデン同窓会セミナーの開催

3月8日、2012年度のスウェーデン同窓会主催セミナー「ICT-ethics: Sweden and Japan」が同窓会会員であるリンショーピン大学のElin Palm博士のオーガナイズにより、同大学で開催された。

日本からeビジネス環境における企業経営と情報倫理の 専門家である明治大学商学部 村田潔教授を講師として 迎え、同大学およびウプサラ大学の研究者を中心に情報 通信化社会に対する理解や期待、プライバシーや財産権 の保護、グローバリゼーションなどを議論した。 ストックホルムセンターからも藤井センター長が JSPSやスウェーデン同窓会の活動、フェローシッププログラムの紹介などを行った。40名程度の研究者が集まり、 多岐にわたる問題について活発な議論が行われた。

#### 2012年度 フィンランド同窓会会合の開催

3月13日、ヘルシンキ大学において、在フィンランド日本大使館、Finnish Institute in Japan, 北海道大学ヘルシンキオフィス、ストックホルムセンターの共催で

「First Finland-Japan All Alumni Meeting "RESEARCH & STUDY POSSIBILITIES IN JAPAN"」が開催され、日本に縁のある研究者等約80名が集まった。

日本の同窓会組織を有する4機関がそれぞれの同窓生である留学生や研究者を招集し、各同窓会の代表による日本での滞在中の経験談や、日本への留学プログラムや共同研究プログラムの紹介、同窓生達の懇談の場が設けられた。

本会合はフィンランド国においての初めての試みで、 参加者間の交流を構築する良い機会の提供となったこと より、今後も継続して開催する予定である。





## スウェーデン同窓会ボードミーティングの開催

3月22日、スウェーデン同窓会ボードミーティングがストックホルムセンター内で開催された。2012年度の活動報告と2013年度の活動計画について議論した。

2012年度の活動としては、General Assemblyや同窓会セミナー、今年度より開始した「Sweden-Japan Academic Network」についての報告や11月から3ヶ月間BRIDGE Fellowshipで日本へ行かれたボードメンバーのJan Sedzik博士からの活動報告があった。

2013年度の活動については、内容およびスケジュールの確認の後、同窓会会員への公募より集まった2013年度同窓会セミナーの選考を行った。申請書を元に活発な議論の元、SMHI(Swedish Meteorological and Hydrological InstituteのJonas Olsson博士主催のセミナーの実施が決定した。



#### 2013年度 スウェーデン同窓会セミナーの開催

4月30日-5月2日に、2013年度のスウェーデン同窓会主催セミナー「Meteorological data for hydrological climate studies: experiences and challenges in different regions」が SMHI(Swedish Meteorological and Hydrological Institute)所属 Jonas Olsson博士のオーガナイズによりノーショーピンで開催された。

日本から京都大学生存圏研究所 谷田貝亜紀代特任准教 授を講師に迎え、地上の水という資源がいかに天候からの 影響を受けているか、天候を予測できることにより水資源 をいかに有効活用できるのか、ということについて様々な 発表がなされた。セミナーには約50名の参加者が訪れ、アジア地域の天候と水資源について議論がなされた。



## Japan-Sweden Science, Technology, and Innovation Symposium 2013の開催

3月7日-8日、スウェーデンにおいて日本の優れた科学技術研究を広く発信することを目的に、大使館・日本化学会と連携し、リチウムイオンバッテリーの発明者である旭化成 吉野彰博士によるシンポジウム「Japan-Sweden Science, Technology & Innovation Symposium 2013 "Lithium-Ion Battery The Inception, Development, and Future"」が開催された。スウェーデン王立工学アカデミー(IVA)やシャルマーシュ大学等からの協力を受け、ストックホルムとヨーテボリの2箇所で開催し、大学や企業の研究者・開発者など、約180名の参加があった。参加者からは科学的な内容から商品化に関する内容まで様々な質問があり、活発かつフレンドリーな会合となった。

毎年テーマを変えて同様の会を実施し、スウェーデンに おける日本の科学技術のプレゼンス強化に努めたい。



# Sweden-Japan Collaboration Symposiumの開催

6月3日-4日にストックホルムセンター主催による「 Sweden-Japan Collaboration Symposium "Exploring the Future of Light, Matter, and Information on the Nanoscale"」がルンド大学で開催された。

日本側は東京大学工学系研究科 大津元一教授を中心に大学や産業界から12名の研究者が、スウェーデン側はルンド大学のAnders Gustafsson教授やスウェーデン王立工科大学のLars Thylen教授などをはじめとした13人の研究者が参加し、ご自身の研究について発表をされた。ルンド大学の学生や研究者も加わり、約50名の参加を得て、活発な議論や質疑応答が行われた。

日本大使館松本書記官も参加され、両国間の重要な研究テーマとして捉えているとの共通認識のもと、今後の活動の継続・発展に向けた支援プログラムの検討などを行った。



#### IVAセミナー開催に向けての打ち合わせ

5月14日にスウェーデン王立工学アカデミー (IVA) において今年度より開催する「IVAセミナー」についての各機関の経費負担や担当業務の確認、開催に向けてのスケジュールについて打ち合わせを行った。

このセミナーはIVA、在スウェーデン日本大使館、ストックホルムセンターの三者の共催により、日本における著名な研究者を招聘して講演会を開催するものであり、協力機関であるSweden-Japan Foundation(SJF)も参加した。

IVAは1919年にGustaf 5世国王によって設立された世界最古の工学系のアカデミーであり、学術・産業・行政からなる数多くのメンバーによってネットワークが形成されている。当センターでは今後IVAと協働し、当地において日本の高い研究・技術力を紹介していきたいと考えている。

#### デンマーク学術関係機関の訪問

3月15日にコペンハーゲンの東海大学ヨーロッパ学術センターと在デンマーク日本国大使館を訪問した。当センターでは、2013年度よりデンマークにおいて活動を開始する予定であり、両機関は重要な連携先である。

東海大学ヨーロッパセンターは1970年にヨーロッパ諸国との学術・文化交流を促進するため、デンマーク文部省の協力を得てコペンハーゲン北部に設立された。施設内にはセミナールーム・宿泊施設・図書館・文化交流施設などを有し、長年に渡り、両国間の学術・文化交流促進に尽力されている。

両機関と相談の結果、2機関が所有する同窓会とJSPS元 fellowを集めた交流会を2013年秋~冬に実施することとなり、今後デンマークにおける交流の第一歩としたい。



## カロリンスカ医科大学 Lotta Lundqvist 氏の来会

3月20日にカロリンスカ医科大学の研究における国際交流 戦略担当者であるGunilla Jacobson博士からの紹介でのKIの国 際交流部署で学生交流を担当しているLotta Lundqvist氏の来 会があった。

Lundqvist氏の担当は日本、中国、カナダであり、KIにおける日本とのMOUについての情報提供があった。

また、日本との交流は学部生や院生の交流より、ポスドクの国際交流が多いとの話を伺い、JSPSのフェローシップのパンフレット等を渡し、研究所内のポスドク等に周知してもらうようお願いをした。

KIの同窓会組織について、日本人研究者の同窓生が少ないという説明を受け、当センターからも日本人研究者に対して同大学同窓会の周知を行うことを約束した。

当センターではカロリンスカ医科大学における日本との科学技術および学術交流の各コーディネーターとの連絡を密にし、様々な連携を図っていきたい。

## 北海道大学 田中晋吾博士の来会

3月21日に北海道大学創成研究機構URAステーション 田中晋吾博士が来会された。

北海道大学は昨年、ヘルシンキにオフィスを設置し、 ヨーロッパにおける学術国際交流の推進に力を入れており、 その一環で調査や意見交換で各国関係機関を回られている とのことであった。 スウェーデンを初めとする北欧諸国の学術動向について のご説明、北海道大学の活動状況などの情報交換を行い、 今後も両機関の連携強化に努めることを確認した。

#### ウプサラ大学ゴットランドキャンパス 中嶋正之教授との打ち合わせ

5月16日在スウェーデン日本国大使館にて、ゴットランド大学(7月よりウプサラ大学と統合)ゲームデザイン学科中嶋正之教授と林正樹准教授、Steven Bachelder教授、在スウェーデン大使館 松本英登一等書記官との打ち合わせを行った。

9月2日にゴットランドキャンパスにてエネルギー分野についてのフォーラムを開催予定であり、これについてはストックホルムセンターと大使館にも是非参加して欲しいという依頼があった。中嶋教授は元東京工業大学の教授であり、同大学から多数の研究者が訪れ、両国間の研究交流が行われる。

また、在京スウェーデン大使館からの依頼で9月19日-22 日に幕張で行われる東京ゲームショーにも参加予定で、9月19日-20日に在京スウェーデン大使館でセミナーを行うこと についても情報提供を受けた。

当該分野は日本が優位性を持っており、現地でも関心の高い分野であるため、来年度以降スウェーデンでシンポジウムを開催することも考えている。JSPSのプログラムへの申請も検討中で、今後も緊密な連携を図って活動を支援していきたい。

#### 東北大学 和田直人教授・太田信准教授の来会

5月24日に東北大学産学連携推進本部副本部長 和田直人教授と同大流体科学研究所 太田 信准教授が来会された。 9月に開催される、東北大学・KTH共同シンポジウムにあたっての打合せが主目的で、全体的なスケジュール・経費役割分担などについて話し合った。

東北大学流体科学研究所は昨年KTH内にリエゾンオフィスを開設し、このシンポジウムはその1周年を記念したもので、両大学の総長が出席することが決定しているなど、現地においても関心が高く、大規模な企画となっている。

期間中には東北大学総長・理事も出席され、シンポジウム以外にも東北大学が積極的に交流を進めたい大学や機関の訪問等の希望もあることより、これらの要望についてもサポートしていきたい。



## 東京大学総長室顧問 Stefan Noreen氏の来会

5月27日、東京大学総長室顧問 Stefan Noreen氏が来会された。Noreen氏は元駐日スウェーデン大使(2006-2011)であり、2011年11月より東京大学総長室顧問に就任されており、東大のみならず両国の学術交流の推進にご尽力されている。

Noreen氏から日本の大学の国際化に向けた活動や現状などをご紹介いただき、ストックホルムセンターからも今年のセミナーなどの活動内容やJSPSプログラムの申請状況、日本の大学から寄せられている要望等などをご紹介し、有意義な情報交換を行った。

今後も連絡を取り合い互いに情報を交換できるようにしていきたい。





#### 2012年度 同窓会活動レポート

#### スウェーデン同窓会セミナー 「ICT-ethics: Sweden and Japan 」

3月8日にスウェーデン同窓会会員Elin Palm博士のオーガナイズによる同窓会主催セミナー「ICT-ethics: Sweden and Japan」がリンショーピン大学で開催された。

主なテーマは情報通信化の倫理であるが、特に1) プライバシー保護、2) 情報通信か社会のあり方と今後の期待、3) 情報提供サービス・情報運営・情報社会について、そして4) 情報社会の国際化の4つの観点について各プレゼンテーションをもとに議論が交わされた。

今回のセミナーには日本からeビジネス環境における企業経営と情報倫理の専門家である明治大学商学部 村田潔教授を迎え、防犯カメラなどに用いられるCCTVのようなシステムについての問題提起から波及する情報化社会が人々に与えうるプライバシー侵害の可能性についてなどについて講演を行っていただいた。

別の講演者からは現在の情報化社会におけるプライバシーポリシーは西洋社会の規律の下作成された経緯があり、アジアや別の文化圏においてはこのようなポリシーは適切でない可能性もあるという問題提起もあり、多岐にわたる活発な意見交換が行われた。

インターネットが普及し、時間場所を問わず情報が行き 交う世の中になっているが、それ対しての環境整備につい ては普及のスピードに追いついていない部分がある。 グ ローバル社会において情報化社会を巡る問題は国や文化を 問わず起こりうる共通課題であり、時機に合ったセミナー となった。

## フィンランド同窓会セミナー 「1st All Finland-Japan Alumni meeting 」

3月13日に在フィンランド日本大使館・Finnish Institute in Japan・北海道大学へルシンキオフィス・ストックホルムセンターの共催による「First Finland-Japan All Alumni Meeting "RESEARCH & STUDY POSSIBILITIES IN JAPAN"」がヘルシンキ大学で開催され、約80名の同窓生が参加した。

同セミナーは前半がフィンランド語で、後半が英語で行われ、各機関がそれぞれのプログラムや事業説明を行った。在フィンランド日本大使館からは文部科学省と国際交流基金の奨学金についての現状報告があったり、Finnish Institute in Japanからは当該機関の概要や平成24年から26年にかけて、高等教育、東アジアとの連携、建築とデザインという三つの要素に力を入れていくとの方針の説明がなされた。また、Academy of Finlandからは、フィンランドアカデミーの博士課程の学生やポスドク対象の奨学金等についての紹介があり、日本は関係を深めていきたい国の一つであり、これらの奨学金を広め、両国間の繋がりを更に強くしていきたいというお話があった。当センターからも藤井センター長がJSPSの事業説明やセンターの活動紹介を行った。続いて、2名の研究者が日本のJSPSやJSTといった機関や日本以外の国から受けたファンドについての自身の体験談を

本以外の国から受けたファンドについての自身の体験談を話され、両者とも、JSPSやJST・Academy of Finlandといった機関との連携を推奨していた。

今回のセミナーは日本における同窓会組織を有する現地機関が合同で開催した初めての会合であった。参加者の出会いや情報交換の場となっただけでなく、主催機関にとっても、今後の連携強化に繋がる場となったと感じている。 今後もこの活動を継続させていきたい。





# 2013年度 スウェーデン同窓会セミナー

#### 企画について:

スウェーデン同窓会では2013年度より同窓会活動活発化のために、会員企画の同窓会セミナーを募集し、ボードミーティングにて審査することとなった。採用されたセミナーの提案者はオーガナイザーとなり、ストックホルムセンターと情報交換しつつ準備を行う。この取組はBRIDGE Fellowshipと並び、スウェーデン同窓会会員が有する特権である。

2013年度について募集を行ったところ、4つの申請があり、2013年3月22日に行われたボードミーティングにて選考が行われ、採用されたのが5月に開催されたOlsson博士企画のSMHI(Swedish Meteorological and Hydrological Institute)を会場としたセミナーであった。

#### 開催内容:

セミナーは「Meteorological data for hydrological climate studies: experiences and challenges in different regions」のタイトルのもとで4月30日-5月2日に、SMHI所属Jonas Olsson博士のオーガナイズによりノーショーピンで開催された。 開催にあたり日本から京都大学生存圏研究所 谷田貝亜紀代特任准教授を講師として迎えた。

3日間の日程の内、1日目は谷田貝特任准教授とSMHIの研究推進課長らと面談し、その後SMHIの施設見学が行われた。またこの後にはノーショーピン周辺の水源環境の視察も行われた。

2日目は終日SMHIにてセミナーが開催され、午前中は谷田貝特任准教授とオーガナイザーであるOlsson博士を含めた5人研究者の講演があった。谷田貝特任准教授からは過去にご本人が作成されたAPHRODITE(Asian Precipitaion-Hightly-Resolved Observational Date Integration Towards Evaluation of Water Resources)という雨のデータベースとそれを作成したプロジェクトについてのプレゼンテーションが行われた。その他の講演者たちの多くは、このAPHRODITEデータベースを使用しており、地上の水資源が天候からの影響を受けているか、そして、天候を予測できることにより水資源をいかに有効活用できるのかということについての発表が行われた。

セミナーには学生等を含む約50名の参加者が訪れ、アジア地域、特にインドや中国の天候と水資源について議論がなされた。この日の午後は講演者を中心とした20人程度で、午前中のプレゼンテーションと議論を更に発展させた専門的な意見交換行われた。

最終日である3日目は同じくSMHIにて谷田貝特任准教授とAPHRODITEのデータを活用している研究者が個別に意見交換ができる時間が設けられた。これによりSMHIの研究者のデータベースへの理解が更に深まり、研究の発展につながるだろうと思われる。

#### セミナーを終えて:

セミナー終了後、今回のセミナーのためSMHIへ招聘された現地研究者より今回のセミナーについて、大変よい機会であったとの感想のメールをいただいた。谷田貝特任准教授の作成されたデータを研究に使用していた研究者からすると、データを作成した本人と意見交換ができたことは大変貴重であり、今後の活動にも活かせる機会であったとのことである。このような意見を寄せられ、ストックホルムセンターとしてもうれしく思っている。

同窓会員にとってこの同窓会会員企画セミナーが魅力的な機会であり続けられるよう、当センターとしても引き続き支援体制を強化できるよう努めていきたい。





## JSPS Sweden-Japan Collaboration Symposium - June 3-4 2013 "Exploring the Future of Light, Matter, and Information on the Nanoscale"

東京大学 大津 元一 慶応大学 斎木 敏治 情報通信研究機構 成瀬 誠

ナノ寸法における光と物質の相互作用を扱う学術分野は ナノフォトニクスと呼ばれ、約20年前に日本で創始され た後、世界的に研究開発が活発化している。スウェーデ ンにおいてもナノフォトニクス研究は活発であり、日本-スウェーデンの研究交流は、2009年6月ストックホルムに て開催された第1回ワークショップ「Sweden-Japan Workshop on Nanophotonics and Related Technologies」を契 機として、2011年度~2012年度のVINNOVA及びJSPSによる スウェーデン•日本二国間交流事業(共同研究) (ス ウェーデン側代表者Lars Thylen(スウェーデン王立工科大 学(KTH))、日本側代表者大津元一(東大))、2012年 6月ストックホルムでの第2回ワークショップ開催、研究 者や大学院学生の相互訪問など大きく発展してきた。こ のような流れを受けて、日本学術振興会、ルンド大学、 KTH主催の第1回のシンポジウムが6月3日~4日に、ス ウェーデン南端に位置する学園都市ルンドにて開催され た。

今回のシンポジウムは、シンポジウムタイトルに表象されるように、光科学、物質科学、情報・計算科学がナノ寸法という極微世界で学際融合する将来のさらなる発展を見据えながら、日本からは各分野を先導する12名の先端研究者、スウェーデン側はルンド大学、KTH、リンショーピング大学を中心に先端研究者が結集した。ルンド大学Anders Gustafsson教授を中心に充実したプログラムを組んで下さり、ルンドの最高のシーズンで開催された。

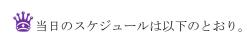
会期中は分野を越えた新しい視点からの発表や質問が 多く、議論が白熱するとともに、日本・スウェーデンの 双方の研究文化の伝統や学術的厚みを相互認識すること ができ非常に有意義であった。今後、より一層充実した 研究協力に発展させる予定である。また、日本からは産 業界から2名の発表があり、ナノフォトニクスの基礎学術 の発展はもちろんのこと、産業創成や社会貢献に大きく 展開していることも注目を集めた。最終日はルンド郊外 にバスにて一同移動し、南スウェーデンの雰囲気溢れる レストランにて、研究・文化談義と、太陽と緑が溢れる 北欧の色彩と石畳の重厚な学術の街並みに一同感動した。 このように有意義なシンポジウムが実現したのは、JSPSス トックホルム研究連絡センター藤井義明センター長、吉 澤菜穂美副センター長、二上佐和江国際協力員、JSPS東京 本部の関連各位の強力なご支援によるものであり深く御 礼申し上げる。また在スウェーデン日本国大使館一等書 記官の松本英登様にもストックホルムよりご来臨頂き交 流と意見交換することができた。この場を借りて関係各 位に改めて深く御礼申し上げる。



#### スウェーデン マデレーン王女結婚式と祝賀パレード



6月8日にスウェーデンのカール16世グスタフ国王の末娘であるマデレーン王女の結婚式と祝賀パレードがストックホルム市内で行われた。マデレーン王女は王位継承4位であり、スウェーデン王室の結婚式は次期女王である姉のビクトリア王女の2010年の式から約3年ぶりである。マデレーン王女は、昨年12月のノーベル賞授賞式にて山中教授がエスコートされた方で、美しい王女様として国内での人気も高く、当日は大勢のメディアや観客が王宮やパレードに集まった。



15:30 来賓一同式会場(The Royal Chapel)へ

16:00 結婚式開始

16:45 式終了

18:05 パレード開始

18:20 リッダーホルメン島から船でドロットニング ホルム宮殿へ

20:00 ディナー開始

23:00 新郎新婦によるウェディングワルツ披露

#### 高円宮妃久子殿下の御接見

マデレーン王女の結婚式にご参列のために高円宮妃殿下がストックホルムをご訪問された。

結婚式当日午前にグランドホテルにおいて、学術、文化芸術、日本人会などの在留邦人約40名とご接見された。

渡辺芳樹大使による各人の紹介の後、懇談され、最後に 妃殿下から労いと励ましのお言葉があった。



#### Mr.Christopher Paul O'Neill

新郎のクリストファー・オニール氏は 1974年6月27日ロンドンに生まれ、ニュー ヨーク在住の実業家。お二人は友人の紹介 でニューヨークで出会ったと伝えられてい る。

#### 表紙の写真について

今回の表紙写真は、新郎新婦及び来賓が晩餐会会場のドロットニングホルム宮殿までのクルーズに使われた蒸気船「ストックホルム」号です。



# Academic Information

### 新ノーベル財団委員長(Nobel Foundation Chairman)の決定

2013年5月1日より Carl-Henrik Heldin博士がノーベル財団委員長(Nobel Foundation Chairman)に就任した。 Carl-Henrik Heldin博士はMarcus Storch博士の後任となる。

Heldin博士は着任について、「ノーベル財団が自分を信頼し、このような任務を与えてくれたことに大変嬉しく、光栄に感じている。ノーベル賞は世界的にも特別なステイタスとなっているものであるので、この位置づけを保ち続けるようノーベル財団の活躍を更に向上できるよう努めたい。」とコメントしている。

また、Vice ChairmanであるHannson博士は、「分子生物学と癌研究の世界的権威であるHeldin博士の就任大変嬉しく思っている。」と歓迎のコメントを寄せた。

\*Heldin博士は日本学術振興会 先端研究拠点事業のスウェーデン側のコーディネーターである。 (日本側は東京大学医学系研究科 宮園浩平教授) 経歴

1980年 ウプサラ大学 PhD取得

1980年 Research Assistant (ウプサラ大学)

1981年 Lecturer (ウプサラ大学)

1981-1983年 Cancer Research Scholarship from the

1984-1985年 Senior Scientist of the Cancer Society 1986-現在 Director (Ludwig Institute for CancerResearch) 1992-現在 Professor (ウプサラ大学)

swedish Cancer sciety

ウプサラ大学HP

http://katalog.uu.se/empInfo/?languageId=1&id=N96-1274

#### ノーベル財団ホームページリニューアル

ノーベル財団のホームページがリニューアルされた。 これによりパソコンからのみでなく、スマートフォンやタ ブレット端末からのアクセスにも対応したページになって いる。

ノーベル財団 HP

http://www.nobelprize.org/index.html

## ノーベルウィークダイアログについて

2012年12月9日に第一回が行われたノーベルウィークダイアログの第2回目は2013年12月9日にスウェーデン・ヨーテボリで「Exploring the Future of Energy」をテーマに開催予定であり、そのHPが開設された。

現時点では講演者等の詳細は未定だが、登録すると順次情報を受け取ることができる。

ノーベルダイアログ HP

http://www.nobelweekdialogue.org/

## ノーベル賞発表スケジュールの決定

2013年ノーベル賞各賞の発表日程が決定し、ノーベル財団ホームページ上で公表された。この度発表されたのは「物理学」「化学」「生理学・医学」「平和」の4つで、「文学」については例年通り追って日程が発表される予定である。

それぞれの発表日程は以下の通り。

医学•生理学

日時:10月7日(月) 11時30分

場所:KI

物理学

日時:10月8日(火) 11時45分

場所:KVA

化学

日時:10月9日(水) 11時45分

場所:KVA

平和賞

日時:10月11日(金)

11時00分 場所:ノルウェー

ノーベル委員会

ノーベル財団 HP

http://www.nobelprize.org/press/nobelfoundation/#/news/view/announcements-of-the-2013-nobel-prizes-and-the-sveriges-riksbank-prize-in-economic-sciences-in-memory-of-alfred-nobel-57064

# Academic Information

#### フィンランド教育省新大臣の就任

2013年5月24日よりKrista Kiuru氏がフィンランド教育省の大臣に就任した。Kiuru氏はJukka Gustafsson氏の後任となる。同氏は過去に教師として務めていた経歴があり、今後の教育省での活躍が期待されている。

また、今回の人事異動により、フィンランドは女性が**10**人、男性が**9**人の内閣となった。



略歴: 1996-2007年 演劇指導、哲学教師 2007-2011年 フィンランド消費者協会 Chair 2011-2013年 住宅・通信省 大臣 2013-現在 教育省 大臣

Ministry of Education and Culture, Finland HP <a href="http://www.minedu.fi/OPM/Verkkouutiset/2013/05/Krista\_Kiuru\_opetusministeriksi.html?lang=en">http://www.minedu.fi/OPM/Verkkouutiset/2013/05/Krista\_Kiuru\_opetusministeriksi.html?lang=en</a>

# gotland/

## ゴットランド大学の合併統合

2013年7月1日よりゴットランド大学はウプサラ大学へ統合され、ウプサラ大学ゴットランドキャンパスへと名前を変えることとなった。

これによりこの秋から新たにウプサラ大学ゴットランドキャンパスとして授業が開始され、開講される科目はそれまでのゴットランド大学同様、ゲームデザイン、ウェブブログラミングの他、エネルギー開発にかかわる内容などとなる。ゴットランドキャンパスでは、今後2016年までに授業プログラム、生徒数、教員数を増やしていく計画である。

また、統合に伴い、これまでのゴットランド大学の同窓 会員は希望すればウプサラ大学の同窓会へ入会できること となった。

ウプサラ大学HP

http://www.uu.se/en/education/study\_in\_uppsala/campusgotland/

### 2機関の英語版ホームページの開設

前号で紹介した2013年1月の高等教育関係機関の統廃合により設立された、The Swedish Higher Education AuthorityとThe Swedish Council for Higher Educationの英語版ホームページに開設された。

The Swedish Higher Education Authority HP <a href="http://english.uk-ambetet.se/">http://english.uk-ambetet.se/</a>
The Swedish Council for Higher Education HP <a href="http://www.uhr.se/sv/Information-in-English/">http://www.uhr.se/sv/Information-in-English/</a>

### 数学分野の新たなプログラムの発足

スウェーデン王立科学アカデミー(KVA)とスウェーデンの私立財団であるThe Knut and Alice Wallenberg Foundationが協力し数学分野の研究促進を促していくことを決定した。これに伴い、数学分野の研究者を対象とする3つの新しいプログラムを発足することとなった。プログラムは以下の通りである。

- ①スウェーデンで博士の学位を取得した若手研究者を対象に**2**年間海外での研究ができるプログラム
- ②スウェーデンのSenior Researcherに2年間ポスドク研究員を雇用するための資金を提供するプログラム
- ③数学の分野で特出した功績のある海外の研究者を最高5人までスウェーデンの学術機関に招へいするプログラム

プログラムHP

http://www.wallenberg.com/kaw/en/funding-guide/calls/call-program-mathematics

# Academic Information

#### "KI Bladet" ~2003 NO.1~

ストックホルムセンターの位置するカロリンスカ医科大学では年"KI Bladet"というスタッフ誌を発行し、学内の様々な情報を提供しています。今回よりその内容の一部を皆様にご紹介いたします。

#### 学長Hamsten博士の構想

2013年1月よりカロリンスカ医科大学学長に就任した Hamsten博士は現在の同大学について、「カロリンスカ医科大学はスウェーデンでは重要な存在である。しかし、国外においては存在感、影響力が足りていない。このような現状に危機感を感じている」と述べた。

現状を打破するために取り組むべく課題は以下である。 1) 若手研究者の育成、2) 海外の優秀な人材の獲得、3) 大 学内の教育部門と研究部門の連携強化、4) 医療施設として のカロリンスカ医科大学のプレゼンスの向上

このうち、大学の教育部門と研究部門の連携については 大学組織の改変を行うことにより着手され、既に新しい動 きが始まっている。

Hamsten博士は課題と現状を見つめ、「長い冬はついに終わった。これから刺激と成功に満ちた春を迎えたい」と今後の活動について語っている。

#### カロリンスカ医科大学新副学長の着任

**2013**年1月よりKerstin Tham教授がカロリンスカ医科大学 副学長に就任した。任期は6年間となっている。 Tham教授は2009年より4年間、Department of Neurobiology,

Care Sciences and Society (NVS)の長を務めていた。

Tham教授は今後力を入れて行きたいところとして、カロリンスカ内の教育環境の更なる向上、キャンパスの位置する地域・コミュニティーとの連携強化をあげている。

カロリンスカ医科大学 HP

http://ki.se/ki/jsp/polopoly.jsp;jsessionid=akb\_46O8Klg5aek229? l=en&d=30811

略歴:

1998年 カロリンスカ医科

大学 PhD取得

2004年 Docenture (at KI) 2009年 カロリンスカ医科

大学 教授

同年 Chair of Dept. of

Neurobiology Care Sciences and Society

(NVS)



"KI Bladet"HP(一部英語)
http://ki.se/ki/isp/polopoly.isp?d=38212&l=sv

#### ポスドク研究員の活動支援

カロリンスカ医科大学のBord of Researchの支援の下、ポスドク研究員の活動を支援する新しいネットワークが構築された。

カロリンスカ医科大学には約800人のポスドクが在籍しているが、その多くは、自身の雇用形態や研究環境に不安を抱えている。

同ネットワークではポスドク研究員の生活、研究環境の 向上のためのセミナーを開催するなど、ポスドク間の情報 共有促進を目指す。

カロリンスカ医科大学ポスドクアソシエーションHP https://sites.google.com/site/kipostdocsorganization/home

#### ハラスメントへの取り組み

現在、カロリンスカ医科大学内の調査によると6人中1人の修士課程の学生がアカデミックハラスメント、若しくはある種の差別的扱いを受けたことがあると回答している。これについて大学内のBoard of Doctoral Educationはこの問題に対応する特別なグループを設け、問題の改善を目指すこととした。このグループは各学部に対し、対策案を講じることを要求し、それぞれの環境の向上を図っている。

#### Docentの現状

大学教資格、またはAssociate Professorに相当する大学においてのタイトルであるDocentの認定について新たな規定が設けられた。新規定では研究者の研究の技術だけでなく、教育能力も考慮しDocentを任命することとなった。しかし専門分野が限られた研究を行っているものには教育の機会がなく、Docentを取得することができないという優れた研究者が存在する。カロリンスカ医科大学側は研究者に対して、学生たちとの交流を促進し、教育の機会を見つけるよう呼びかけている。

#### アッセンブリーホールの名称決定

現在ソルナキャンパスに建築中のアッセンブリーホール の名称が"Aula Medica"に決定した。ソルナキャンパスの 中でも一際目立つこの建物は今夏

完成予定で、ノーベルレクチャーや 各種シンポジウム会場としての役割の 他、大学の事務局も入居予定である。 開所式は10月11日。

関係 HP

http://ki.se/ki/jsp/polopoly.jsp?d=3 9615&l=en



# Notice

### 未来アジア・技術フォーラム2013Swedenの開催

将来のエネルギー技術開発に取り組む、APS開発研究会と未来技術研究会、未来アジア技術フォーラ等の共催で、「アジアの再生可能エネルギー利用についてヨーロッパに学ぶー産学の国際技術交流」をテーマとした構想や課題を討議する国際フォーラムがウプサラ大学ゴットランドキャンパスにて開催されます。

ご興味ご関心のある方は是非ご参加ください。

日 時: 2013年9月2日(月)13:30~16:40 (開場:13:00)

会 場: Conference room in Uppsala University, Campus Gotland, Sweden

### 東北大学・KTHワークショップの開催

東北大学流体科学研究所がKTH内にリエゾンオフィスを設立し、この秋で一周年を迎えます。これを記念して、ストックホルムセンター、東北大学、KTHの共催でワークショップが開催されます。今回のテーマは"International Workshop on Flow Dynamics related to Energy, Aerospace and Material Processing Exploring the Future of Light, Matter, and Information in the Nanoscale"です。詳細は以下をご覧ください。ご興味ご関心のある方は是非ご参加ください。

日 時: 2013年9月10日(火)~9月11日(水)

会 場: KTH, Stockholm, Sweden

## カロリンスカ医科大学、慶応大学、北京大学共催

## Summer Research School について

2012年よりカロリンスカ医科大学・慶應義塾大学・北京大学の3校共同で博士課程学生を対象としたサマースクールを開講しています。昨年は慶應義塾大学にてサマースクール開催されましたが、本年はカロリンスカ研究所が開催地となりました。今回のテーマは"Nanomedicine: Applied to Infection, Inflammation, and Immunology"です。

日 時: 2013年8月12日(月)~9月6日(金) 会 場: Karolinska Institute, Stockholm, Sweden

# Sweden-Japan Academic Network 2013の開催

昨年9月に第一回会合を開催いたしました "Sweden-japan Academic Network 2013" の開催が決定いたしました。参加方法等は後日ご案内いたします。

日 時: 2013年10月17日(木) 会 場: KVA, Stockholm, Sweden

# 外国人特別研究員事業(欧米短期&一般)

外国人特別研究員事業(欧米短期&一般)(JSPS Postdoctoral Fellowship Program (short-term & standard))は、諸外国の若手研究者に対し、我が国の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業です。

●ご申請は外国人特別研究員の受入れを希望する日本の研究者から、日本学術振興会 へ申請書をご提出いただきます。詳しくは日本学術振興会ホームページをご覧ください。 http://www.jsps.go.jp/english/e-fellow/index.html

## カロリンスカ医科大学同窓会 会員募集

KIでは過去、現在問わず、カロリンスカに在籍されていた方々のためにKI Alumni & Friendsを設立し、様々なイベントの企画、メールマガジンによる情報提供、を行っています。KIにいらした事のある方でご関心がある場合には是非以下ホームページをご覧にください。

https://www.network.alumni.ki.se/portal/public/Default.aspx

### JSPS Stockholm News Letterの定期購読について

ニュースレターの定期購読(電子メールにて配信します)をご希望される場合は、 機関名、部署、氏名及びメールアドレスを明記の上、<u>info@jsps-sto.com</u> までご連絡 ください。

# 職員紹介



4月1日より着任しました、二上佐和江と申します。来年の3 月までこちらのJSPSストクックホルムセンターで勤務させていただくこととなりました。日本の研究者の方々やスウェーデンを中心とした北欧諸国の研究者の皆様とお仕事ができる機会を頂き、とても嬉しく思っています。今後とも何卒よるしくお願いいたします。



#### はじめまして!

田島マリカと申します。今年の6月からストックホルムの研究連絡センターで働いています。出身は、セーデルテリエという町です。

大学で日本語と言語学を勉強して、京都へ留学に行ってきました。皆さん、これからよろしくお願いします!

JSPS Stockholm News Letter 第38号

編 集:二上 佐和江 発行日:2013年6月26日

発行元:日本学術振興会ストックホルム研究連絡センター

連絡先: JSPS Stockholm Office, Retzius väg 3, 171-65 Solna, Sweden

Phone: +46(0)8 5248 4561 FAX: +46 (0)8 31 38 86

Website: http://www.jsps-sto.com/ E-mail: info@jsps-sto.com

